



## PETROUCHKA



### Kenji Usui Ballet Collection

#### 薄井憲二バレエ・コレクション 哀しげな道化〜ペトルーシュカ

# vol.1

2006/10/21 (Sat.)～2006/11/19 (Sun.)

《ペトルーシュカ/PETROUCHKA》

初演：1911年6月13日（ディアギレフのバレエ・リュス）  
振付：ミハエル・フォーキン  
音楽：イーゴル・ストラヴィンスキー  
美術・衣装：アレクサンドル・ブノワ  
バレリーナ役：タマーラ・カルサヴィナ  
ムーア人役：アレクサンドル・オルロフ  
ペトルーシュカ役：ワツラフ・ニジンスキー  
魔術師役：エンリコ・チェケッティ

《ストーリー》

1830年代のロシアの広場、2月半ばのお祝いの時期である。様々な出し物が繰り広げられる中、人形使いの魔術師が3体の人形を連れて現れる。ペトルーシュカ（道化師）はバレリーナに恋し、バレリーナはたくましいが頭は空っぽのムーア人にひかれる。ペトルーシュカはバレリーナに言い寄り、怒ったムーア人に半月刀で切り殺されてしまう。事件に集まってきた群衆に向かって魔術師はペトルーシュカの身体を持ち上げ、中身がおが屑であることを見せる。その身体を引きずりながら帰ろうとする魔術師の前にペトルーシュカの亡霊が現れ、何事かを伝えるような身振りをし、魔術師は驚いてそそくさとその場を後にするのだった。

《解説》

振付は独特の手の動きを多用するフォーキンで「ペトルーシュカ」は彼の代表作のひとつである。ストラヴィンスキーの音楽も特徴的で、バレエとしてだけでなく、オーケストラとしてもしばしば演奏されている。バレエ・リュスのスターであったニジンスキーは衰れで頼りなげな、しかし殺されても死なないという神秘的なペトルーシュカ役で称賛を得た。その姿は多くの芸術家を刺激し、ジョルジュ・バルビエやロバート・モンテネグロら著名な画家たちがペトルーシュカを演じるニジンスキーの姿を描き残している。また、この役はニジンスキーに続くバレエ・リュスのスターたち、そして近年では、ルドルフ・ヌレエフ、パトリック・デュボンら多くのスターによって踊り続けられている。

#### 薄井憲二バレエ・コレクション 哀しげな道化〜ペトルーシュカ

# vol.1

2006/10/21 (Sat.)～2006/11/19 (Sun.)

出展リスト（作品・資料名／分類／年代／ほか）

◆「バレエ・リュスの印象〜ペトルーシュカ」

（書籍[BK-219-pl] / 1919年 / シリル・ボーム著、ミシェル・セヴィア画、ロンドン、シリルボーム出版）

“Impressions of the Russian Ballet 1919, PETROUCHKA”

written by C.W.Beaumont, Decorated by Michel Sevier,  
London C.W.Beaumont 75 Charing Cross Road W.C.(BK-219-pl)

◆《コメディア・イリュストレ》誌

（雑誌 / 1911年8月1日号 (Vol.3 No.19) / コメディア・イリュストレ社発行）

“Comodia Illustre” 1911.8.1.Vol.3-No.19 Le Directeur  
Gerant:M.De Brunoff.Imp,KAPP.Paris

### 次回予告

#### 薄井憲二バレエ・コレクション Vol.2 踊るアイドル〜ワツラフ・ニジンスキー

薄井憲二バレエ・コレクションにはいくつか柱となるテーマがあります。そのうちのひとつがバレエ・リュス（ロシア・バレエ団）です。バレエ・リュスの中でも最強のスターだったのがワツラフ・ニジンスキーでした。現在のアイドルのような熱狂的なファンを獲得していました。もちろん人気だけではなく、その実力は生きている頃から伝説になるほどで、「飛んだまま降りてこなかった」「アントルッシャ・ティス（空中で足を打つ動き〈ババ〉を連続で5回すること）ができた」などと伝えられています。

（期間：2006/12/19～2007/1/21 於：2階共通ロビー・ピアッツァ）

企画・監修 芳賀直子（はが・なおこ / 薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター）